

■マイルグランプリ（SII）（過去全 30 回の分析）

- ※第 1 回（平成 7 年）から第 16 回（平成 22 年）までは 3 月中旬～5 月下旬に実施
- ※第 17 回（平成 23 年 3 月 30 日実施予定）は東日本大震災の影響により中止
- ※第 18 回（平成 23 年 11 月 2 日実施）から第 26 回（令和元年）までは 10 月中旬～11 月中旬に実施
- ※第 27 回（令和 2 年）から第 29 回（令和 4 年）までは 7 月下旬～8 月上旬に実施
- ※第 30 回（令和 5 年）は 11 月中旬に実施
- ※第 8 回（平成 14 年）から第 9 回（平成 15 年）までは 1,590m で実施
- ※記録は令和 6 年 10 月 2 日時点

■上位人気馬の成績はまずまず

単勝 1 番人気馬は 10 勝、2 着 2 回、3 着 7 回で、3 着内率が 65.5%、単勝 2 番人気馬は 7 勝、2 着 4 回、3 着 5 回で、3 着内率が 55.2%、単勝 3 番人気馬は 4 勝、2 着 6 回、3 着 2 回で、3 着内率が 41.4%となっている。極端に好走率が高いわけではないものの、上位人気馬がそれなりに信頼できるレースと言えそうだ。

■人気サイドの馬が上位を占めた例も少なくない

中止となった第 17 回を除く過去 29 回のうち 21 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 6 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 3 回ある。

■コンサートボーイとセイスコーピオンが“連覇”を達成

マイルグランプリにおいて 2 回以上の優勝経験があるのは、第 2 回（平成 8 年）と第 3 回（平成 9 年）を制したコンサートボーイ、第 23 回（平成 28 年）と第 24 回（平成 29 年）を制したセイスコーピオンの 2 頭である。なお、いずれも 2 回連続の優勝だ。

■3 歳時に勝ったのはクリスタルシルバーのみ

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 1 勝、4 歳が 9 勝、5 歳が 8 勝、6 歳が 7 勝、7 歳が 4 勝となっている。施行時期の変更により第 18 回（平成 23 年）から出走条件が「3 歳以上」に変わったものの、3 歳で優勝を果たしたのは現在のところ第 25 回（平成 30 年）のクリスタルシルバーのみである。

■牝馬と外国産馬は未だ初勝利ならず

牝馬は第 11 回（平成 17 年）のプルザトリガー、第 13 回（平成 19 年）のアウスレーゼ、第 19 回（平成 24 年）のラインジュエルがそれぞれ 2 着となったものの、現在のところ未勝利だ。また、外国産馬も第 9 回（平成 15 年）のタイキアーサーによる 4 着が最高着順で、優勝例はまだない。

■13 勝の大井勢を 10 勝の船橋勢が追う

所属別の勝利数を見ると、浦和が 2 勝、船橋が 10 勝、大井が 13 勝、川崎が 4 勝となっている。船橋勢ならびに大井勢が優勢だ。

■騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、石崎隆之騎手と張田京騎手が 4 勝でトップタイ。的場文男騎手が 3 勝で単独 3 位となっている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「2」

調教師別の勝利数を見ると、荒山勝徳調教師、岡林光浩調教師、川島正行調教師、栗田繁調教師、高橋三郎調教師、月岡健二調教師、出川克己調教師、八木正喜調教師が 2 勝でトップタイとなっている。

■未勝利の馬番は 16 番のみ

枠番別の勝利数を見ると、6 枠（7 勝）が単独トップ。4 枠（6 勝）が単独 2 位、7 枠と 8 枠（各 4 勝）が 3 位タイとなっている。また、馬番別の勝利数を見ると、8 番（4 勝）が単独トップ。2 番と 10 番（各 3 勝）が 2 位タイ、6 番、7 番、9 番、11 番、12 番、13 番、15 番（各 2 勝）が 4 位タイ、16 番だけが 0 勝で、残る馬番はいずれも 1 勝ずつである。

<伊吹雅也>